園長通信～こころ～ №１５

クラブチーム

2024.4.24

久しぶりにテニスコートに行った。平日のナイターの時間帯である。駐車場に車を置いた。意外と車が少ない。外に出た。すると、遠くから「校長先生」という声が聞こえた。どうやら、私のことらしい。近づいてみると、３月まで勤務していた中学校の生徒だった。「元気そうだな」話をした。「お久しぶりです」私の部活動の教え子でもあるお母さんとも話をした。

ナイターで使えるコートは１２面ある。使っているのは、地元高校の部活動、中学生のクラブチーム、そして小学生と中学生が一緒のクラブチームだった。この光景は、以前と変わらない。数えてみた。中学生が参加しているクラブチームが４つもあった。これが、違う曜日であれば、また違うクラブチームがコートで練習するようになる。

昨年度から、中学生にとっての大事な大会、いわゆる本番である中学校体育連盟、中体連の大会にクラブチームも参加できるようになった。だが、ソフトテニスの場合、クラブチームからの参加は少なかった。今年度はというと、一気に増えそうである。前述の４つのクラブチームを見ても、そのうちの２つは、今年度から中体連大会に参加してくる。

大会も変わるが、一番は中学校の運動部が変わっていくことになるだろう。ソフトテニスで考えてみる。自分の中学校にソフトテニス部がある。小学生のうちからクラブチームで活動してきている選手がいる。今までは、学校の練習とクラブチームでの練習を両立させながらも、〇〇中学校の選手として大会に出場してきた。

ところが、自分が所属するクラブチームが中体連大会に参加するようになった。さて、どうするか。学校の部活動には所属せずに、クラブチームで練習し、クラブチームの選手として大会に出る。今まで通り、学校でも練習し、クラブチームでも練習し、大会にはクラブチームから出る。あるいは、クラブチームと相談し、大会には学校の選手として出る。はたまた、こういったパターンも考えられる。クラブチームで練習し、クラブチームから出るので、部活動は文化部に所属する。これは、部活動全員参加の学校で起こり得ることである。

どうやって、誰が決めるのだろうか。中学生であれば、本人の意向は聞いてもらえるだろう。だが、決定権は中学生にあるのだろうか。クラブチームの指導者や保護者など、大人が決めてしまうのではなかろうか。何事も、移行期、過渡期はむずかしい。よく子どもを真ん中にという。この問題こそ、中学生を真ん中にして考えなければならない。部活動の地域移行は、何のためだったのか。そもそものねらいを忘れてはならない。

これからも、週に何度かはテニスコートに行き、中学生が生き生きと活動する様子を見守りたい。そして、学校であろうが、クラブチームであろうが、ソフトテニスを楽しみ、大会等で切磋琢磨し、互いに成長してくれればと心から願う。